

## 第1回 関西支部研修会

午前「歯科衛生士が知っておきたい画像検査法および画像診断」

午後「明日から使える歯科診療に必要な開業医のための画像診断」

講師：日本大学松戸歯学部放射線学講座 金田 隆教授

日時：平成29年5月14日(日)

場所：梅田センタービル 32F 322号室



美濃 亮 (京都府)



平成29年5月14日、大阪梅田センタービル32Fにて、第1回関西支部研修会が行われました。

今回の研修会は、日本大学松戸歯学部放射線学講座 金田 隆教授をお迎えし、術前診断やガイドドサージェリーに不可欠な画像診断のスキルアップを目的として、ご登壇頂きました。

古市 嘉秀関西支部長の開会の言葉で始まり、午前は「歯科衛生士が知っておきたい画像検査法および画像診断」と題して、歯科衛生士含め40名余りの受講生に対し、とても貴重なご講演を頂きました。

また、引き続き午後は、歯科医師に向けて「明日から使える歯科診療に必要な開業医のための画像診断」という事で、パノラマエックス線写真の正常解剖像の習得から、顎関節症の診断およびインプラント治療におけるCT画像やMRI画像の供覧に至るまで、とても興味深い内容をご教示頂きました。

歯科診療において、現在は以前と比較しCT画像の有用性やCT画像診断の重要性、またインプラントにおけるCTを用いたトップダウントリートメントなど、CTの持つ役割が提唱されています。しかし一般的にみると、まだまだCTの普及率は低いと言

わざるを得ない状態です。

そのような中、コンピューターや周辺医療機器の進歩とデジタル画像診断のインプラントへの応用、悪性腫瘍などの腫瘍病変との鑑別診断など、さらなるCTやMRIの活用の可能性についてお話いただきました。

また一方で、口内法やパノラマエックス線検査についてもご指導いただき、歯や歯周組織、顎骨病変の鑑別診断のみならず、インプラント、矯正治療の術前検査、顎関節症のスクリーニングおよび患者さんへの病状説明の資料としても必須の画像検査であり、改めて単純撮影を考察し直すよい機会になったのではないかと考えました。

